

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

（全般モニター使用）ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、3番上田雄一、31回目の一般質問をさせていただきます。

きょうはですね、最初に末藤議員さんが行われ、ランナー1塁。牟田さんが送りバントを決められたということで、ワンナウト2塁。最低でも2アウト3塁、あわよくばワンナウト1、3塁をねらって頑張っていきたいと思います。

最近つくづくですね、感じるがあります。というのは、この私がお世話になって、この議会にですね、お世話になってすでに7年と半分強が経過しており、その当時を振り返ってずっと考えていくと明らかに違うことが、この武雄市というこの知名度は、物すごいもう進み方で知名度が上がっていると感じております。

私もですね、この仕事をさせていただいて、おかげさまで県内・県外、たくさんの議会関係者の人、また首長さん、またいろいろ政党関係の人、たくさんの知り合いの皆さんができました。そこでですね、最初に御挨拶するだけでも、武雄市議会上田です、っていうことで御挨拶するだけでですね、あら武雄からですか、って。多分皆さんもたくさんそういう方がいらっしゃるんじゃないかなと思っております。（発言する者あり）（笑い声）

でですね、今議会でもすでに答弁等が出てきておりますけれども、Tポイントレディスゴルフトーナメント。これはもう全国のトッププロが武雄へ来る非常に嬉しいことであり、佐賀県初だということを伺っております。

先ほどもですね、先輩方と話をしている印象に残った言葉が、議会は夢を語ると。夢を語って高揚を起こす、と。そして前進を生む、というような話を伺って、なるほどそうだな、と。私も思い起こせば、やっぱり武雄をですね、にぎわいのまち武雄をつくるためにこの場にいると思っております。

そういう意味からでもですね、これ逆のほうの答弁のほうになるんですけど、図書館についての公開討論会を実施するというような話を、実施したいというような答弁がございましたけど、もうすでにですね、図書館はたくさんの皆さんのおかげでですね、予想をはるかに上回る前進を遂げているわけですよ。それをですね、この場でもう討論会とかもする必要なからうもん、というようなのが私の率直な感想です。今実施しても、やっぱりもうすでに決まったことです。すでに実施して、もう前に進んでることです。

でですね、今回、再来月になりますけど、自由民主党の兵庫県連青年局の皆さんが武雄にお越しになります。武雄にというか佐賀県にお越しになります。1泊2日で視察に見えられるんですけど、初日は玄海原発だそうです。2日目は武雄市って。中身はって、新武雄病院と図書館を視察したいと。わざわざですね、兵庫県から20人もお越しになって、そこを見に行きたいって。やっぱりですね、そういうのが武雄の知名度も十分に上げていることじゃないかなと思っております。

ですね、今回、質問に入ってるわけですけど、もう武雄にとって嬉しいニュースが、もう先ほどの女子プロゴルフでもそうですけど、今回ですね、紹介したいのがこれですよ。有田工業初の甲子園に導いてくれました古川侑利投手。彼が楽天にドラフト4位で指名され、入団が決まったと。もうこれは非常に喜ばしいことだと思います。もう本当にですね、もううち、ドラフト会議を子どもたちがずっとビデオに撮ってまでずっと見ながらしよって。指名されたよって言ってくれたわけですよ。実質今回4位で指名をされたということで、私もですね、いろいろ野球好きなもんですから、いろいろ調べよったらですね、これ佐賀県から3人目なんですよ。古里さんが阪神で3位。福地さんが広島で4位なんですよ。（「武雄から」と呼ぶ者あり）何て言うた……（「佐賀県」と呼ぶ者あり）ああ武雄からだ、北方町からですよ。今回古川さんが楽天の4位と。

これですね、やっぱり4位って、かなりよかとですよ。というのは、あの大選手イチローもドラフト4位ですもんね。阪神の金本さんもドラフト4位。元楽天のエースで今マリナーズにいかれてる岩隈投手もドラフト4位です。ドラフト4位っていうのがですね、大成する選手がたくさんいるっていうことで、古川選手もぜひですね、そういう選手になっていただきたいなと思っております。

そこで1つ質問ですけども、今回古川選手が楽天に行くことになりまして、やっぱりですね、武雄市民総ぐるみで応援をしていきたいなと思うわけですよ。これはちょっと生々しい話にもなるかもわからんとですけど、やっぱりふるさと納税等も考えてもらってですね、武雄にぜひ貢献をしてもらえ——今回ですね、幸いなことに今度から入団をするわけで、まだやっぱりこっちと仙台のほうを行ったり来たりする機会が多いんじゃないかなと思うんで、その間にですね、ぜひふるさと納税の御説明もですね、しっかりしていただいて。

とにかく武雄市民総出で応援できるようにしていただきたいと思っておりますけど、まず1点これを質問させていただきます。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、公開討論会の件なんですけど、やっぱりこれは結構やっぱインパクトがあったようで、私のところにもいろんな連絡がありました。賛否両論でした。やるべし、というのと、もうせんでもよかたいね、という2つがありまして。でも私はやっぱりやったほうがいいと思うんです。

というのはもう、もうね、うちも疲弊しているんですよ。こんな分厚い公開質問状をね、もうあれ、ほとんど嫌がらせです。はい、本当に。であるとするならばね、もうみんなが見てるところで、賛成・反対、5・5でもいいですよ。3・3でもいいです。もうそこで、もう万機公論に決すべし。もうそこで、もう言いたいこと言ってもらって、私たちも言いたい

こと言います。それでもしね、そこで我々が誤解があればね、そこは正せばいいだけの話であって。もうやっぱ会って話すのが一番。ただし、これは密室ではよくないと思いますので、それは公開ですということなんで、むしろこれね、井上さんのためでもあると思うんですよ。うん、あの、ね、どんどんどん公開質問状が紙爆弾のように来るよりは、それよりは、もうみんなが見ている前で自分の言いたいことを言ってもらって、我々も言いたい。しかもそれを前向きに、なればそれはそれでいいと僕は思ってますので。

なんかね、また来るんですよ、もう公開質問状が。もう爆撃機みたいですよ。(笑い声)
はい、いや本当に笑い事抜きにして。

本当にそれがね、じゃあ武雄市にとって前向きになるかっていうか、それは比較の問題で、恐らくね、いや何もないのは一番いいんですけど。そのね、爆撃機よりもね、僕ね公開討論会のほうがいいと思いますよ、うん。だからそれは比較の問題だっていうふうに思っています。

それと、このふるさと納税、うち担当がいます、はい。おじの古川建設課参事、うん。彼をきょう担当に任命します。(笑い声)

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

はい、ぜひですね、もう本当武雄市総ぐるみになって古川選手を応援していきたいと思っております。

続いてですね、本題に入っていくわけですが。

今回、教育について。まちづくりについて。福祉について。以上3項目を通告をさせて頂いております。一部、これまでとたくさん重複する部分があるかと思いますが、御容赦願いたいと思います。

それでは早速ですね、武雄中学校の改修計画についてをいきたいと思うんですが。

これは武雄中学校の校門、正門。正門からとった絵になります。これが模型です。これ航空写真で、これちょっとですね以前撮っている分なんで、今と若干違うかもわかりません。

今回ですね、この校舎。校舎、これは管理棟になります。この管理棟をですね、ちょっと色を塗ってみたわけですよ。これがですね、ちょうどこう2つに分けるとですね、この重箱堤よりまだ太かわけですよ。こっちの重箱堤がですね。やっぱり私は、この重箱堤は何とかせんともったいなないというのがあって、いろいろここでも質問をさせていただいてるわけですけど。

これが今現状の練習風景ですね、テニス部の。

これがですね、現在の計画からいくと、テニスコートが3面、ここに3面ですね。3面の予定です。テニス部は、さっき言いましたけど、あ、言ってませんか。さっきこれ出しまし

たけど、男女合わせて90名ほどおるわけですよ。物すごい人数なんですよ。

それで私、今回、前回は提案させていただいたんですけど、ここの重箱堤をですね、やっぱり埋め立てて、このテニスコートをここまで持ってくればですね、ちょっとグレーっぽく半透明なってますけど、ここ1つ分までは駐車場にしていいかと。要はこの校舎のつらまで、全部駐車場にできると。要は今の計画からいけば、倍まではいかないですけど、ほぼ倍近くなっていくんじゃないかと。

これが、その重箱堤の写真になるんですけども、これもですね、私の6月議会の答弁を、6月議会でもここで一般質問させていただいたわけですけども、そのときの答弁を整理しますとですね、防火水槽としての位置づけがあるということがまず1つ。そして、区の持ち物なのでこっちから言うというのは基本的にはない、というような答弁をいただきました。それからまた半年ほど、私もずっといろいろ考えていろいろ相談をしながらやっていったわけですけど。防火水槽としての位置づけがあるということはですね、消火栓整備もしくは重箱の規模を縮小するなど、水利の確保をすれば解決するんじゃないかなと思うんですよ。ちょっとここ簡単に埋め立てたとして想定して、ちょっと色を塗ってみたわけですけど。

例えば防火水槽ということであれば、この程度もあれば十分機能は、役は果たせるだろうと。もしくはですね、これもう全部埋めてしまって、例えばこういう所にですね、消火栓を設置するとかいうことでですね、十分クリアすると。だから私はこれはあんまり大したあれじゃないかなと思うんですよ。

ただ一番やっぱ問題なのは、問題ちゅうか重要なのは、こっちですよ。やっぱり区の持ち物であるということ。だから、こっちからいろいろ言うことはないということであるわけですけど、ここでですね、ちょっと御報告ちゅうか、あれなんですけど。

私は一般質問を見よってですね、区長さんたちといろいろ話をして、区の皆さんともいろいろ話をしたわけですよ。そいぎ、「わいの言いようとは、わかった」って。そいぎ、「学校にそがんで重箱が役に立つとないば、ちょっとうちはよかばい」て言うてくんさったわけですよ。はっきり言って、もう地権者である小楠区の理解をいただいたわけですけども。

であればですね、ちょっとあの6月議会の答弁で、2つちょっと懸案になっていたことが、2つともクリアできるんじゃないかなと思うんですけど、これについて答弁をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先日ですね、地元の区長さんが直々に私の所にお越しいただきました。その中で、小楠区からこの土地、重箱堤のね、土地そのものについて提供の申し出がありましたので、これについては、これから協議を始めたいと思っています。この協議が整えばね、ぜひ学校用地と

して、これ、全部がテニスコートになるかどうかはちょっと別にして、先ほど上田議員さんがおっしゃったようにね、防火水槽の役割もあるかもしれませんがけれども、いずれにしても、これ学校用地で中心にして使ってまいりたいと、このように伺っております。

協議にさっそく取りかかってまいりたいと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

はい、ありがとうございます。ぜひですね。やっぱり広かですもんね。ここば遊ばせとくともったいなかけんが、ぜひ。ありがとうございます。本当、助かります。

それではですね、次にICTに入りたいと思いますけれども、ICTも、これまでかなりかぶっております。かぶっておりますけど、私が聞き損なっているとかもわからん部分もあるしですね、もう1回ちょっと重ねてになりますけど、質問をさせていただきたいと思えます。

今春に小学校にタブレットを配付して、その翌年の春に中学校に配付をとということで、これはですね、その前の新聞記事にあったことで、目的としてはこのような感じで書かれておりました。

でですね、私も保護者の一人としてですね、たくさんの声を聞くわけですよ。

これはですね、武内小学校の参観授業に行ったときの写真になるんですけども。結構やっぱりみんな一生懸命しておりました。

何点かの疑問点を、確認をさせていきたいと思えますけれども。

まずですね、この反転授業。これ取り入れるきっかけになったのは、何なのかと。どこかこう先進事例があったのかというのがですね、まず最初に聞いてみたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ、そもそもですね、自分の小学校時代を振り返ったときに、僕は不登校だったんですね。だから学校行くのが苦痛で苦痛で。やっぱりね、それが多分、原体験にあって、しかも私は今、この立場で学校を回っています。小学校も中学校も時間がある限り回っていったときに、やっぱりですね、回れば回るほど、子どもたちの本音が引き出せるわけですよ。授業おもしろかね、って聞いたら、おもしろくない、っていう声も結構あるわけですよ、ね。おもしろいという子もいると思えますよ。

なんで、もう少しきめ細かいことができないのかなということと、恐らく私が、多分、反発して今の子どもたちがおもしろくないって言うてるのは、中身よりも一斉授業っていうのは多分しんどいと思うんですね。一斉授業っていうのが。

だからもう少し、自分のマイペースで、しかもね、ここにいらっしゃる方は、みんな1回聞けばわかると思うんですよ。議員さんとかうちの職員さんとかね、1回聞けばわかる。上田議員さんもそうだと思うんだけど。

実際ね、回ってみるじゃないですか。あのね、わかっているふりをするのと、わかったって違うじゃないですか。だから、2回か3回聞いてわかる子もいっぱいいるんですよ。そうなったときに、これどうにかならんかなと思ったときにですね、そこに座っている代田さんが私の所にやってきましたね、これ「NEWS23」でも、実際これはもう放映されましたけれども、いや樋渡市長、反転授業っていう取り組みがあります、と。これ何なの、って聞いたら、いわゆる予習中心にして家でタブレットで15分ぐらい見て、それで自信を持って授業に出て、その授業では実際子どもたち同士が教え合って、学び合って高め合うっていうことなんですよ、って聞いて。ああ得体の知れない人だな、とか思ったんですけど……（笑い声）はい、得体の知れない人でした。

これから樋渡さん、これが教育を変えていくんです、というのをすごく、きょうの答弁で言われているみたいに、こう切々とおっしゃったんで、あっこれはぜひね、やってみてもいいのかなと。しかも武内小学校と山内東小が、もう3年以上前からタブレットを配付して一定の実績を上げていますので、これはなじむのかなということがありました。

ですの、私からは最後にしますけれども、きっかけは、私自身は代田さんから聞いたのが最初のきっかけ。

それと、どこかに先進事例があったのかということになると、それは私自身は、ほか知りませんので、これについては多分、代田さんがお話しになるというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

はい。反転授業を取り入れるきっかけと、その先進事例の話なんです。

そもそも、予習を中心に授業をやるという考え方自体は最近の話ではなくて、ずっと前から、予習をやってくるといいよね、っていう話はあったと思います。ところが、その予習が効果的になるっていうのが、アメリカのほうで非常に爆発的に流行ったのが、そのきっかけをつくったのが、サイマル・カーンという人です。この人が、家庭教師をやっていた動画をユーチューブにあげたんですね。それで、これでやるとよくわかるよっていったものを、ユーチューブですから全米の人たち、むしろ世界中の人たちが見て、あれ、これを見ると、より授業がわかりやすいということが、爆発的にそのインターネットの普及と、さらにタブレット端末で見れるというICTの技術が進んだことによって、その反転学習、単なる予習じゃなくて10分なりの動画を見て、自分なりに主体的に学ぶと授業がよりおもしろくなるというようなことが、2000年代、特に2000年後半から実績が出始めたというふうに思っていま

す。

これは私の経験ですが、杉並区の和田中学校でやったときに、反転授業まではいかなかったんですが、やっぱり話し合いの授業、教え合いの授業をやると、子どもたちがどんどん主体的になってくる。学びに対して自主的に取り組むようになった。これはすごく実感値がありましたので、一方的な授業の時間をなるべく少なくして、子どもたちが教え合う。そういう時間が必要なんじゃないかなというふうに思っています。

(モニター使用) 前回の質問のところでもお話ししましたがけれども、やはり人間の子どもたちの記憶というのは、一方的に教えられる記憶力というよりも、他人に教えた経験、さらにはグループで討議すると。こういったチームでやる、こういったことが知識の定着につながるということも、これは正式な研究所で出ている報告なので、こういったその理論に基づきながら、技術を使って反転学習をするのというのは効果的ではないかというふうに考えています。以上です。

○議長(杉原豊喜君)

3番上田議員

○3番(上田雄一君)〔登壇〕

サイマル・カーンですね。もうその、ユーチューブに載せてあるんだったら、もう私たちも見れるわけですから、ちょっとその辺は私もまた、戻って見ていきたいと思います。

続いてですね、これも保護者の皆さんの興味の高いところなんですけれども、今回その反転授業等を行う上で、このタブレット端末を使うわけですけど、授業時間中に、大体どの程度使うのか。

私はここの授業参観をですね、ちょっと見に行きましたんで、ああこういう感じなのかなと思うのはわかっておるんですけど、ひとつ、例えば授業1時間の授業が50分なら50分、何分かちょっとははっきりした時間わかりませんが、50分の中でどの程度の時間を、タブレットを使って授業をするのか。また、1週間の授業、月、火、水、木、金、5日間ですかね。土曜日もあるのかな、入らないのか。その中で、どの程度また使用頻度があるのか、ここをちょっと、もうちょっとお伺いしたいと思います。

○議長(杉原豊喜君)

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

(モニター使用) 上田議員のほうも見ていただくとわかるんですが、iPadを使った授業だと、子どもたちがずっとタブレット端末に向かっているかのような誤解がありますが、そういうことは一切ありません。

タブレット端末を有効に利用するという事なので、特に使い勝手というか、タブレット端末が有効的に使われるのは、みんなの意見を共有するときです。要は、自分が発言すると

きただけだと一人の意見では聞きませんが、タブレット端末で自分の意見を書く。そうすると全員の意見が共有できる。こういうときには、従来の声の大きい人とか元気のいい人だけじゃなくて、意見が共有できるという意味で使います。それが大体5分間くらいです。最後、授業のまとめとして、どのくらいわかったかとか、テスト問題のときに、大体また5分くらい使います。ですので、授業の中で使う時間というのは10分、長くても15分くらいの時間の感覚だというふうに御理解いただければなというふうに思います。

じゃあ、これが1日5時間ある中でどのくらいかというふうに考えると、大体今の現状という、1科目か2科目くらいが使われている頻度で、スタート時点としては1日2、3回の授業、多くても2、3回の授業で使われるイメージかなというふうに思っています。

〔3番「1日」〕

1日。例えば、理科と算数とか。国語のまとめ、そんな形になるかなというふうに思います。

あわせて、じゃあ反転授業をどのくらいやるのかということで、今、市内の先生方と予習の動画をつくっていただいていますけれども、教科としては算数と理科。しかもその算数と理科、全部予習の中心の反転学習やるかと。そうではなくて、大体コマ数、授業時間数の4分の1から5分の1くらいのコマ数になりますので、じゃこの反転授業は、大ざっぱにいうと大体5分の1くらいですので、1週間持ち帰るとなると、2回から3回くらい家庭で宿題があるというようなイメージです。

繰り返しになりますが、宿題となるのは2、3回くらいかなと。授業としては2、3時間が初年度スタートとしては現実的なのところかな、というふうに考えています。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

ちょっと、このまましとってください。よかですかね、すいません。

ちょっと、この反転授業をこう見ていると、私が個人的にちょっと気になったのが、やっぱり一番、準備として一番大変なのは、私ここじゃなかとかなと思うとですよ。この家庭の最初の約10～15分。

〔代田教育監「はい」〕

ここですね。

〔代田教育監「はい」〕

ここの準備が一番大変やなかとかなって思うわけですよ。

〔代田教育監「はい」〕

結構——すみません、よかですよ。

私が見てですね、学校の方で現場で、よくスマートボードとかをこう使われているのを見たり

してるときにちよくちよく起きるのが、画面がフリーズしたりとか。そういうところがちょこちょこ見受けられるとですよ。これスマートボードが新しい古いのが理由なのか、その動かそうとしているソフトが大容量なのかどうなのか、そこら辺はちょっと私もわからないんですけど。結構、そこで先生たちもパニックになんさあときのあつとですけど。

今ですね、学校のICT支援員っていうのがたくさん、こう配置をされてますけど、1校に1人は配置はされとらんわけですよ。そこはぜひちょっと、これからの検討課題として考えとくべきじゃないかなと勝手に思っておるんですけど、そこら辺はどうですかね、対応として。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

ICTの支援につきましては、25年度で9名配置をいたしておりまして、次年度以降、小学校にはタブレットが全員に配付ということもございますので、今予算編成の時期ですので、財政当局とまた話をしていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

本当、ぜひそれをお願いします。

現場のほうがですね、やっぱりウエートが大きくなっていくのも、またちょっとあれですので。

すみません、画面を変えてもらってもよかでしょうか。

それではですね、これももう答弁で再三出ておりますけど、機種やアプリケーションについて、今後どのようにするつもりなのか。これもお聞かせ願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

機種やアプリケーションの選定については、タブレット端末選定協議会（361 ページで訂正）を有識者、学校関係者、保護者、8名の委員によって構成し、そこに対してプロポーザルを受け、そこで決定していくという形になります。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

プロポーザルで決めていくということですね。わかりました。

それではですね、それはスケジュール的にはどのような感じで考えられているんでしょう

か。というのも、もう実はもう12月でしょ。来年の4月までもう残り3カ月しかない中で、スケジュール的に、最終的に、機種がこうなりますよ、アプリケーションがこうなりますよと、保護者、子どもたち、学校現場にいつ、こう周知ができるようなスケジュールになっていくのかまで、ちょっとお答えを教えてくださいたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

もちろん、議会で予算承認を受けた暁には、の話になりますけども、1月下旬にはその審査会で決定を出し、そこでアプリケーション等、発表したいというふうに思っています。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

はい、わかりました。1月下旬ですね。

それではですね、ここもですね、これちょっと今議会で出るかなと思ったんですけど、これは出てないんじゃないかなと思うんですけど。

壊したり紛失したりした場合の対応っていうのが、結構やっぱり気になられている保護者さんって結構いらっしゃるんですよね。ちょっとこれ、どこさんやったかなっていう、ちょっとクエスチョンな絵を、あるんですけど。また紛失もあるんですけど、こういった形でですね、ちょっとおどされたりみたいな感じを、タブレットですからそういうのがあるんじゃないか、というのと。あとまた、こういうふうに落として割ったりとか、そういうのがいろいろあるかと思います。

ここら辺の対応はですね、検討委員会だと、さきの議会ではお話だったかと思いますが、ここら辺の制度設計はどのようなスケジュールになっていますか。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

はい、先ほど私の発言で、ちょっと訂正をさせていただきたいと思います。タブレット端末選定協議会というふうに申し上げましたが、タブレット端末選定委員会の間違いですので、訂正、お詫びさせていただきます。

今の議員の質問なんですけど、ごもっとだと思います。持ち帰ったときに、特に小学生ですから、壊したり紛失したりするケースの対応に関しては、今後教育委員会で詰めていきたいというふうに考えていますが、まず壊さないようなところで、取り組みとしてはですね、まず1つ、タブレット端末に衝撃保護カバーというものをしっかりと装着させると。さらに衝

撃が吸収できるようなフィルムもしっかりやって、壊れにくいものを購入したいというふう
に考えています。

もう1つは、学校の教育の中ですね、自分の個人の持ち物ではなくて、公共の持ち物だ
ということで、そういった、がさつに扱わない指導も徹底していきたいというふうに思いま
す。

それでもですね、やっぱり壊れてしまったという状況に関しては、すべて無償で市のほう
では対応したいというふうに考えており、保護者の、壊れたときに負担があるという形は取
らない方向で考えています。紛失したりというのもありますけれども、先ほど議員が言われ
たですね、やっぱり、おどされて取られちゃったっていうのは、紛失とはちょっと違うと思
いますので、やっぱり盗難とか火災とか、そういう明確な理由で紛失した場合に関しては、
もちろん無償でもう一度提供したいと思いますが、本当にうっかり紛失したとかそういう問
題に関しては、保護者の負担等もやっぱり考えていけない部分でもあるかという
ふうに思っていますが、今後そこら辺については、詳細は詰めていきたいと考えています。以
上です。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

〔樋渡市長「佐賀県とは違います」〕

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

これまでの答弁の中で、紛失——さっき市長の答弁やったですかね。ほら、これを持って
帰って、登下校の下校ルートから外れとるとかっていうとまで……

〔市長「わかります」〕

わかるってことであればですよ、この紛失っちゅう可能性はなかわけですかね。そこ
ら辺どうですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これちょっと、ごめんなさい。詳細がよくわからない部分があって申し訳ないんですけど。
多分ね、電源を切っても多分、何ちゅうか居場所ってわかると思うんですよ。

〔3番「GPSかなんかで」〕

GPSで。なんで、そこは多分大丈夫だと思うんですね。

ですので、そういう意味での一般的な紛失っていうのは、多分ならないと思うんです。で
すので、あ、もう今そこまで技術が進んでいますので、そうはならない。

それとちょっとあわせて申し上げますけれども、これをゲーム機みたいに使うんじゃない
かって、きのうも一般質問の終わった後に、私に言われた保護者さんがいまして。これは、

家に帰ったときにインターネットにはつなげない、つながないような仕様にします。

それと、今ソフトでですね、夜9時になったらもう開けないっていうのもあるんですよ。シャットダウンという言い方しますけれども。そういうものもありますので、100パーセント、もう教育目的に使ってもらうように、これもあわせて制度設計がなされるというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

わかりました。それではですね、この反転授業のこう向かうべき方向が、方向っちゅうか、おかしかですかね。これも保護者の皆さんが結構危惧されている部分で、どういうふうに思っているのっていうのがですね、ちょっと簡単に図をつくってみました。

これですね、例えばA君、B君、Cさんがおりますと。Aさん、Bさん、Cさんがおります。普段Aさんは、大体70点ぐらい取りなされると。Bさんは50点ぐらい取りなされる。Cさんは30点ぐらい取ってるというところですね、これが反転授業、ICT事業を活用することで、ですね、理想はみんなが100点を取れるように頑張っていこうっていうのが理想だと思んですけど。中にはですね、こう予習重視の授業というところも、予習のウエートが大きくなるということですね、このAさん、Bさん、Cさんの、例えばAさんは70点取りようけん、結構予習も一生懸命するやろうと。Bさんも、せんばらんごとなぎ、そこそこするやろうと。Cさんはもともと宿題もいっちょんしんさんようだったらね、なかなかあいやなかかなということで、結局Aさんとかは、もう平均上がる。Bさんも、そういうのに取り組んだことで上がる。Cさんは、こいから下がるっちゅうことはなかなか考えにくくても、考え方としてはですね、結局ここで、もう予習をしていかんぎついていききらんってなって、こっちが下がっていくんじゃないかっていう心配をされている方もいらっしゃるわけですよ。

もしくはですね、これ真逆の考えで、ここの70点っていうのは変わらんけども、Cさんは普段、宿題とかいっちょんしんさんやったばってん、ICTの教育になってiPadを使って予習をするってなるぎ、そがんゲーム感覚ででくつとはものすごく興味があった、実はあるってなって、この子がいきなりこう90点をとったりするっていうような効果もあるんじゃないかという、いろんな見方があるわけですけど、ここら辺は、教育委員会としてはどういう方向を向いているのか、そこら辺を答弁お願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

公教育ですので、公教育の目的は全ての子どもたちの学力の保障と向上、これは大きな目

的ですので、もちろん議員が言ったように、すべての子どもたち 100 点とれるように、これは大きな目標だと思います。

その全ての子どもたちの学力の保障・向上のために、1 つ有効だということで、アメリカやオーストラリアで先進的に進んでいるのが反転授業の手法なんですけど、効果としては、今の C さんの 30 点の人の伸びが大きいということは報告されています。アメリカなんかでもこれが市民権を得ているのは、落第率がすごく減っているということが出ているので、御質問に端的に答えると、より反転授業の効果が出るのが C、B の人達が上がっていくというところは、海外の事例ではあります。

じゃあ A の子は伸びないかというような話になるんですが、これ先ほどピラミッドでもお見せしたとおり、A の子も教える側にまわるので、先生なんかの教える側にまわるので、より知識の定着が高まるというような効果は見られると思います。以上です。（「なるほど」と呼ぶ者あり）

○議長（杉原豊喜君）

3 番上田議員

○3 番（上田雄一君）〔登壇〕

でも結局は、じゃもうこっちを目標……（笑い声）こっちを目指しているっちゃうことですね、やっぱりね。この上げ幅が C さんのほうが大きくなっていくということですからですね。

〔樋渡市長「そうです。そうです。」〕

はい、はい。（笑い声）わかりました。

それでは次にいきまして、これですね。

反転教育、反転授業という言葉だけがですね、先行しているくらいがあるのを感じておるところです。要はこの学校現場、学校の先生方もですね、あんまり、まだピンってきとらんって、聞いとらんっていうごたふうな話もこう聞こえるわけですし、保護者にいたっては、当然まだ全然、もう新聞報道等だけの情報だと思うわけですよ。

これについてですね、すべての各学校で説明会を実施すべきではと通告をするときには、こういうふうにあげときましたけど、これまでの答弁でもう一覧表まで出てきとるなかです、そこら辺改めてスケジュール的なものも御披露いただければと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

（モニター使用）上田議員おっしゃるようになりますね、これから一番、私たち教育委員会がしっかりやってかなきゃいけないのは、教育委員会からの押しつけの反転授業ではなくて、

先生たちが自ら主体的に取り組む教育活動にしなければいけないというふうに思います。そのためにも、保護者への理解というものも進めていかなきゃいけないというふうに思っています。

これは前回ごらんいただいたですね、保護者の説明会。すでに昨日ですね、橘小学校のほうでは行いましたけれども、本当に大勢の保護者の皆さんが来ていただいて、積極的な質問もありました。こういうのを一つ一つ丁寧に行っていきたいというふうに考えています。

一方、先生方へはどうしているかということと言うと……（発言する者あり）10月中にですね、校長のほうには、校長会のほうでは説明会を行い、このICTスキルアップセミナー。これは武雄の先生方がですね、自主的に月1回ですね、18時半から集まって夜勉強するという、そういったこう非常に前向きな機会でも御説明の機会をいただいて、ここでもこういった形で、各学校へ戻ってこういった形でやってくださいというのを始めています。

実際に予習のコンテンツ、動画のコンテンツをつくるのは、先月は、11月21日は武内小学校だけでありましたけれども、もうすでに全小学校のほうに回らせていただいて、全小学校でつくっていきこうということで協力体制を仰ぎながら、もう一度こういう会議を1月中にも定期的を開いてやっていきたいというふうに思っています。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

これはもう本当にですね、すごい教育改革ですので、現場の皆さんにもですね、いかにこう成功するためには現場と一緒にやらんといかんけん、ぜひそこら辺の周知徹底はお願いをしていただきたいと思います。

それでは続いて、教育について今度は土曜日開校についてです。

これはですね、以前からやっておるところであります。土曜日等の開校。実際はいろいろこうアンケートをとられた中で、最終的には年間10日程度ということでやられておりますけれども。これもですね、前回さきの議会で質問させていただいたわけですけど、現在保護者の声をどう認識して、来年度どう取り組んでいくかというところで、私の個人的な見解としては、国ないし県で横並びを実現すべきじゃないかということで話をさせていただいたところですね、教育長のほうでは検討委員会を開催すると。夏休み、9月議会でしたので夏休み明けてすぐだったので、これから検討委員会をして早いうちに情報をおろしていく、ということだったかと思いますが。来年度の方針等があらかた出ているのかどうなのか、そこら辺をお伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

土曜日等の開校につきましてはですね、夏休みを含みまして、これまで申しましたように各学校 10 回程度の開校をしております。

ただこれがですね、1 月、2 月まで含めてのものでありまして、その間その来年度のことを考えて、一斉のほうがいいのかと。あるいは今年度やっているような、学校独自の日を設定したほうがいいのかと、そういうような話し合いをですね、重ねてはきております。情報を集めてきておりますが、現在のところではですね、今回程度の、10 回程度の土曜日等の開校を指定せずにですね、やったほうがやりやすいという。それが先般の御質問にもありましたように、各学校の、こう特色ある取り組みにもつながってるという現実もございますし、今の時点ではそういうように、こう考えております。

またちょうど、きょうの佐賀新聞のほうにも土曜日授業取り上げてありましたけれども、新たに文科省が改正して出している通知においてもですね、各市町教委の判断で進めるというような大枠の方向というのが出されております。地域によって事情が違う状況からは、そういうことになろうかというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3 番上田議員

○3 番（上田雄一君）〔登壇〕

市内で独自でやっていくと。今年度と同じような感じでやっていくということですね。私もですね、そう思うんですよ。あくまでも横並びでするんだったら、国もしくは県での横並びというのはあっていいかと。

これはですね、もう全部がそれに向かっていくんだたらいいと思うんですけど。あくまでなんか武雄市単独の授業であってですね。

うちの子どもが通う小学校は、御船に行ってますんで、御船が丘小学校と、本来であれば武雄中学校とかも連携をせんといかんと思うわけですけど、やっぱり社会体育、社会活動等がですね、やっぱり同じ町内ということで、やっぱり武雄小学校との連携をしとるわけですよ。それでもですね、調整をしても 10 日程度のうち一緒になるのは 7 日しかできんやったわけですよ。3 日間はもうお互い独自っていうことで。

この町内同じ小学校でしても完全に一致が無理なところをですね、やっぱりこれを市で横並びってなると、ちょっとこれはまたおかしゅうなりやせんかなというのが、ちょっと私の危惧するところございまして。来年度は今の、今年度のようなやり方をやっていくという方向にいったらいいことですね。わかりました。

それではですね、この学期制のところなんですけれども。

今回平成 16 年度から、武雄市内は 3 学期制から 2 学期制になっております。25 年度から、今年度から土曜日等開校が 10 日程度入ってきていると。今現在も、県内で 2 学期制を実施しているのは嬉野市と武雄市だけですかね。確かそうだったと思うわけですけど。

そこら辺ですね、土曜日等開校もし、授業時数の確保は学力向上でいっていると。しまいには、これがですね、武雄市では反転授業まで取り入れるとなつての学力向上、授業時数等々を鑑みると、もうそろそろ10年たつんで3学期制も考えるべきじゃないかなと思うわけですが、そこら辺はいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

3点ほど申し上げたいと思います。

1つはですね、この土曜日等の開校につきましては、今回示してある文科省の例としてはですね、学校がもうきちっと定めてやる土曜日等の開校。それから、うちで今中学校3年生を対象にしているような、希望者を集めての土曜日等の開校。あるいは全く学校を別にして、NPO等の協力を得てする授業等々がですね、4通りほどが示してあります。

そうすると、希望者だけの登校となるとですね、授業時数としてはなかなかカウントしにくいというところもございます。ですから、この土曜日等の開校がどういう形で、今年みたいな10日程度のうちは、かなりの授業時数をカウントできると見ておりますので、これは2学期制じゃなくても十分できるという、今の時点ではそういう判断しております。

したがって、仮に3学期制に戻るとしましても、今年が1月、2月ぐらいまでの土曜日等の開校ありますので、集計して26年度、変えるにしても27年度かなと。それまでにしっかり、この今年度の反省をもとにですね、評価をしまして。この反転授業の分については、授業時数とは直接は関わらないかなという思いでございますけれども、そういう判断を考えております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

わかりました。

それではですね、まちづくりのほうに入りたいと思います。

これはですね、この議会の場でも取り上げてまいりましたが、楼門が新しくきれいになって、ようやく完成しておるようです。これも非常に武雄にとってはうれしいことでありましてですね。これは15日、今度の日曜日の夕方6時からライトアップのイベントが行われると。夕方6時やったですよ。行われるちゅうことですので、これもぜひですね、皆さん足を運んでいただきたいなと思うわけでございますけれども。

本題に入っていきますが、武雄市にとって先ほどの楼門も朗報なんですけど、今回また朗報がですね。しかもこの2カ月、9月議会が終わったあとの2カ月間の中で2つありました。

もう皆さん御存知なんですけど、10月3日にコスモス薬品、12月3日九州西濃運輸さ

んが武雄市への進出を決定されたと。議会でもですね、再三、企業誘致はどうなってるんだ、どうなってるんだ、というような話を再三再四こうやってきているわけであって、今回もこの2社の進出というのは、非常に喜ばしいことじゃないかなと思うわけです。

こちら辺はですね、もうしょっちゅうしょっちゅう、どがんなつとうかどがんなつとうか、ってずっと聞かれっぱなしだったんで、これはうれしい話題が入ってきましたんで、こちら辺は状況的にどうなのか説明をいただきたいなと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これね、あそこにいる人のおかげですよ。何だっけ、あ、北川。北川理事とね、千賀。この相性のいいのか悪いのかわかんないコンビが組んでね、スタッフと一緒にやっているって。だから、あそこは基本的に、うちはエースを送り込むんですよ。みんなエースですけど、特にエースを送り込むんですけど。やっぱりね、例えば松尾謙一君とかの話が、いまだにやっぱ聞くんですよ。だから、そういうふうな、もうチーム北川。はい。人相はそんな良くないですよ。ですがやっぱりね、あそこまでやっぱいってくれたら、やっぱ来ますよって。

それで、今池田というのがいますけれども、彼の名前も、あちこちでやっぱ聞くんですよ。あんなに熱心な公務員は——自分の所にも、たくさん企業誘致でこう来ると。しかし池田君ほど熱心な人間は、今まで私は見たことがない、っていう人とね、この前たまたま羽田空港でたまたま、武雄の市長さんでしょ、って言われて、はいそうです、って。池田さんの上司ですね、って言われたんですね。どの池田かなとかって思ってたんですけど、やっぱその話が出るんですよ。

だから事ほどさように、私も関西大学の誘致にかかわったことがあります。そのときもやっぱ言われた、やっぱ人なんですよ。だから、それがやっぱりこういうふうに立て続けに、こんな景気の悪い中で武雄市、ほとんど武雄市だけがこう結びついているっていうのは、うちの職員力のたまものだと思います。

それともう1つ大きいのは、上田議員さんがおっしゃってくださったように、やっぱ知名度なんですよ。同じとこ——企業の経営者と話をすると、大体3つぐらい考えてるんですよ。3つぐらい考えていて、最終的にどこにしようかっていったときに、やっぱりですね、私が何人かから聞いたのは、知名度だということと、もう1つ言われたのは病院です。病院が近くにあるっていうのは、本当に安心安全のかなめになるし、調べてみると武雄市は割と交通の要所だねと。これ調べてないと交通の要所もへったくれもないじゃないですか。

だから、そういったことが今非常に良い循環でなってきましたので、そういう結果でこの前の、きのう発表されましたCCCのTポイントレディスとかっていうのも、全部僕はつながっていると思いますので、これまたね、この勢いを持続させていきたいと、このように考

えています。

今後の予定があるかっていったら、今いくつか調整をまだしていますので、決まり次第また報告ができようかなっていうふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

本当ですね、やっぱうれしい限りですよ。企業誘致が実現するちゅうのはですね。

今までですね、これもさきの議会で使った資料をそのままちょっと活用しておりますけども、平成23年10月に分譲を開始して約2年。これまで分譲済み面積がゼロ、残り18.4。立地企業がゼロってところがですね、それこそ前回の議会で新産業集積エリアの何のかんの、新産業の縛りのあるとや、あんまりとらわれんでもようなかろうか、という話もしました。なんてなし企業誘致も物流とか運送業にまでも視野ばひろげんばいかんとやなかですか、というところを私も何も知らじそがんことばいいよった、3カ月前ですよ。

今回やっところこに3ヘクタール、立地企業数がここに1っていう数字がここに入ってきて。あ、すいません、ここが15.4になるわけですね。そういうふうになります。

若木の工業団地については、これは先ほど牟田議員さんからもお話があったように、完売と。ここに九州西濃運輸さんが入ってきて、若木の工業団地は完売御礼ということでございます。

それでですね、今回この18.4に、ここに3ヘクタールのコスモス薬品さんが入っていただいたわけですよ。これは今議会に出てますけど、取り付け道路、どがんじゃして取り付けんばいかんはずです。こっから出入りしかなかろうけんがですね。これももう勝手に私が適当に入れていただけですので、誤解はされないように。となると、ここに約2ヘクタール。ここが約12ヘクタールぐらいはあるわけです。

今回このコスモス薬品さんがきたことで企業誘致呼び水として、今後の展望も含めて答弁をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

副市長から言うな言うなと言われているので言いませんけれど、相手のある話ですので。1つ大きな所と、もう調整をしています。決まり次第、議会ならびに市民の皆さんたちに公表したいと思っています。

これもポイントとなるのは、やっぱり知名度なんですよ。

それと、その方々がおっしゃっているのも、やっぱり病院・図書館と、あと……（発言する者あり）うん、図書館もおっしゃってます。武雄市の勢いだ。やっぱりですね、自分た

ちも知られた所に行きたいっていうことですので、もちろんここは交通の要所でもあるわけですね。要所でもありますので、これをもう1つ、こう決まったときにね、やっぱ前の北方の町長さんである松本町長さんであるとか、黒岩幸生議員さんがおっしゃっているような34号線のバイパスですね。と、あそこのドライブイン、昔で言うドライブイン鳥ですね。あそこの部分ていうのをちゃんとやらないと、結局来られてもがっかりされるというふうに思ってますので、あわせてね、そういう社会的インフラの整備も進めていく必要があるだろうというように思っております。

決まり次第、また御報告ができるというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

はい、わかりました。

それではですね、続いて新幹線について入りたいと思います。

新幹線、新鳥栖から武雄温泉間が現在フリーゲージということでの事業認可がおりているわけございまして、ここの議会の場でも再三、ルートはどうあれですね、フル規格をぜひ推進していくべきだということを、常時、常にこう申し上げてきております。

そんな中でですね、これは嬉野市議会の意見書になりますけど、県内各議会でもいろいろな動きがあります。嬉野に続いてですね、鳥栖市、神崎市、多久市、上峰町がこれまで県に対しての意見書を出されております。武雄市でも同様の動きが必要だということですね、9月議会においては新幹線とまちづくり特別委員会の皆さんでですね、原案作成をいただき、西九州フル規格化への協議を求める意見書というのを9月議会で可決、成立して送付されたわけですけども。

この柱がですね、1つ目が、字が小さいんで大きくしますけど、財政負担の見直し。要は「建設費の財源は通過する地元の自治体が3分の1負担をするものとなっているが、新幹線事業にあたっては、全額国庫負担等での整備は行うことと。」

2つ目が、博多～長崎間の全線フル規格化の実現と。「現在予定されているフリーゲージトレイン方式ではなく、在来線走行時の踏切等の安全面への不安や冠水等の自然災害による影響等を踏まえ、全線フル規格化を強く要望すること。」ということで武雄市議会も県のほうに意見書を提出したところでございます。

これはですね、新幹線活用プロジェクトの総会の場でございます。その新幹線活用プロジェクトもですね、実はもう官民一体の団体としてですね、フル規格化を求める要望活動を実施されました。ここは私ですけど、山口良広議員さん、末籾さん、小柳さんと、議長さんいらっしゃいます。稲富さんもいらっしゃいます。

はい、そういうことですね、これはですね、大坪会長が——大坪副会長になんさあとで

すかね。この県の皆さんにですね、要望活動をされているところでございます。私も同席させていただいて、たまには私も写らんばと思って、ここ残しております。

それですね、これは沿線5市の首長・議長による、これも要望活動ですね、はい。これも要望で、こちらもいろいろな話が出ております。

今回、武雄市議会としても、むしろこう上のほうを向いて要望活動やっておりますけど、あっちの下り方面のほうにもですね、いろいろ事業をせんと、こっちもまたこの沿線5市という強力なタッグは組んでいかんといかんわけで、そこら辺についてもまたいろいろなことを考えていかんといかんのじゃないかなと思っておりますけど、市長が考えるフル規格化へ向けた次の一手というか、そこら辺の考えが何かあるのかどうか、ぜひお聞かせ願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ今ですね、僕に言うな言うなの大合唱なんですよ。(笑い声) フル規格って言うなて。もう本当ね、こんなに圧力かけられるのかなっていうぐらいに、フルの推進をする首長さんとか議長さんとかには、物すごい圧力がかかっているんですけど、僕は圧力関係ありませんから。(笑い声) はい。圧力があればあるほど、違うこと言います、僕は。

でね、やっぱりね、これ今のフリーゲージのまんまだと、絶対に後悔します。絶対に後悔する。それよりも数年伸びてもね、フル規格ってしたほうが、20年、30年たったときにね、実際使う子どもたちがね、大人になって使うときに、あのときの判断よかったよねって。今ね、妥協してフリーゲージってなるとね、あのときの大人は、市長とかね議会とか、何ば考えよったやったっていうふうに。僕はそれは避けたい。ですので、言うていきます、フル規格と。

ただし県の考えも、あ、プレッシャーかけての県っては言ってませんよ。(笑い声) あのね、県の考えもわからんでもないんですよ。物すごい莫大なね、金額が県にのしかかってくるって。県にのしかかっているっていうのは、それは県というのは県民ですから。武雄市民もそうなんです。だから私どもの負担になるっていうことになるんで、県の考えはわかるんで、だから再三申し上げているとおり、このシステムそのものを変えようよということ、ぜひ言うていきたいというふうに思っています。

ただ武雄市がね、言っても、今はインパクト相当ありますけれども、それ以上にまず2つ考えています。

まず沿線5市のネットワーク会議を、早めにちょっと開こうと思っていて、そこで何ちゅうんですかね。そこでフル規格というのが決まらないにしてもね、フル規格が大事だっというようなシンポジウムをぜひ開いて、5市でこう一体となって盛り上げていくというのが第

1点。

それと第2点、先ほど上田議員からも御紹介があったように、例えば上峰町さん等は、もうフル規格にしてくれということをおっしゃっているんで、沿線並びに、そうおっしゃっているところを巻き込んでね、新幹線とは直接、駅とは関係ないところも巻き込んで、やっぱりこういう連携しながら、フル規格の気運を高めていきたいなというように思っています。

それと時期的に言っても、あと2年がもう勝負なんですよ。これを逃すと、もうフリーゲージそのままになってしまいますので、環境アセスメント調査が、今25年の27年にかけて実施中でありまして、あと2年あまりで事業化になってしまいますので、これが始まる前に手を打つ必要があるだろうというように思っております。

ですので、今度あれなんですよ。私ども4月の6日、市長選と市議選じゃないですか。ぜひねこれね、もう議会も議員さんもぜひ思いっきり言ってほしいと思うんですね。私もそれは思いっきり言おうと思っておりますので。それで政治の意志として、あと住民の意志として、言う必要はあるだろうと。

それと、この前ちょっと——ごめんなさい、長くなって恐縮なんです。大坪さんが、観光協会の会長さん、今あの新幹線の副会長さんが、ああいうふうに県の副知事におっしゃった場に、上田議員さんもおられましたけれども、あれ物すごいやっぱインパクトがあって、国交省の人も知ってましたもんね。佐賀新聞に大きく載りましたからね。多分それを、多分入手されたと思うんですけど。そういう、ある意味草の根運動というのがやっぱり効くんだなということを思いましたので。これはもう、官も民もそういうつまらない意識抜きにして、もう一体となって草の根運動を起こしていくということを、ぜひお願いしたいと。

これで大きい、やっぱり自民党なんですよ。今自民党が政権を握っているときにね、その見直しを、政治の意志としてやっていただくことということが大事だと思いますし、もし自民党がそれをしなかったら、もう違う政党を応援します。(笑い声)

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

県内先ほどもですね、意見書が出たところ——まあいいや。

神埼だったり鳥栖市だったりとかっていう話をしましたけど、今議会、この12月議会もですね、よその議会でも今出ていないところで、そういう動きがちらほら聞こえてきておりますので、ぜひそこら辺も一緒になってですね、頑張っていたきたいと思います。

続きまして、最後の福祉についてですけれども。

今回ですね、予防接種の公費助成について質問をさせていただきます。

これですね、成人向けの肺炎球菌の予防接種に、これ私にきた1通のメールからなんですけど。ついては、1回接種すれば効果は5年と言われておると。ですが接種費用に約8,000

円もかかって、年金受給者にはきつかもんね、ということでありました。

県内ほかの自治体では助成制度がありますけれども、今武雄市にはないと。何とかならんやろかということでの話です。

今回ですね、この予防接種の公費助成について、このメールをもとにですね、私なりにもいろいろ勉強しました。いっちょんわからんこと難しかごたとぼっかやったとですけど。

今現在、武雄市ではですね、このような予防接種の助成がされております。麻疹、風疹とかいろいろ、不活化ポリオとかいろいろあります。こっちのピンク色になっているのが法定の部分です。こっちのが任意接種の部分の助成制度になります、黄色がですね。

今回、この肺炎球菌についてのところでありますけれども。肺炎球菌についての予防接種もいろいろ私も勉強をしましたけど、やっぱり難しかですもんね。ただ、もうなんじゃいわかごたんだけ、ちょっと抜粋してきたとですけど。

日本の死因の第3位が、その肺炎であるというところが、これを見ればわかるのかなど。成人における市中肺炎の起炎微生物頻度というふうなところで、肺炎球菌が多いと。

これがですね、全国的にもいろいろ、今実施されてる自治体が、助成、実施しているのが、17.5パーセント。違う、これは摂取率か。こっちは摂取率だ。45パーセント——あれ、どこや、どこやったかな。あれ。これはですね摂取率で、自治体の助成がですね、45パーセント——ああ、ここ書いちゃあか。はい、ですね。全国で45パーセントの自治体で、その高齢者に対する23価肺炎球菌ワクチンの公費助成が実施されていると。摂取率はただ17.5パーセントで、いまだ低いというところ。まあこんたいが、私の頭でも少しは理解でくっかできんかぐらいなところでありました。

私もですね、いろいろお声をかけていただきましたので調べました。

県内では現在ですね、嬉野市、小城市、唐津市、多久市で助成がされております。これもまたそいがですね、まず助成の仕方がどこでんばらばらでですね、ちょっとこの表ば、こういうふうにつくるしかなかったとですよ。嬉野、70歳以上に対して4,000円の助成。小城市は65歳以上の人に3,000円。唐津市は75歳以上の人に3,500円。こっちは、多久は65歳以上に2,000円とかですね。町のほうもですね、有田町、大町町、基山町、江北町、太良町、吉野ヶ里町が実施をされてるわけですよ。

いろいろこう見よったらですね、市によっては、この小児のインフルエンザワクチン。これさっき、あの黄色のほうですね、法定じゃない部分。任意接種の部分の助成制度で、こちら辺は実施をされてますけど、武雄市にとっては、この小児のインフルエンザのワクチンの助成をしているっていうところで、大体こうしとらんところが、こっちばしよったりとかっていうような感じなんです。神埼とか佐賀市、鳥栖市に関してはどっちも何もしよんさなかとですけど。もうそれ以上のことは、ちょっと私も調べておりません。

ということで、もうこれでダブるのがこの嬉野市だけですね。実施がされてると。そいけ

んが、まあどっちかばとつとるような感じになりゃせんかなとかっていろいろ考えはしよったとばってんが、今度町のほうを見るとですね、結構どっちもしよんさあとですよ。有田、大町、基山、江北、太良。

っていうことですね、そういう中でこの公費助成。

すみません、ちょっと先にいきますけど。

このインフルエンザワクチンとの肺炎球菌ワクチンの併用効果ちゅうところがありました。これは、公益社団法人日本糖尿病協会の「月刊糖尿病ライフ」による記事なんですけど。65歳以上の高齢者778人で研究をされておりましたけど、肺炎の減少傾向は認めるものの統計学的に優位差はないと。でも、75歳以上の高齢者、慢性肺疾患、歩行困難症例等においてはですね、ここが明確に肺炎の発症が減少したという実績が出ているそうです。

厚生労働省のワクチン問題小委員会のワーキンググループって、もう何じゃ長かですねこれ。研究結果からいけばですね、日本全国の65歳以上の全員の皆さんに摂取を仮定した場合に……（発言する者あり）144億円、摂取総額がかかると。でもそれによる肺炎などの医療費の削減効果というのは、およそ5,000億というふうに記事が出ております。

ここら辺でちょっと質問なんですけど。肺炎球菌の予防接種の助成をですね、武雄市でも、ぜひ求める声があります。これがなんか全国で先駆けてやったのが、村上先生らしかですね、なんか話によると。そこら辺をぜひ考えていただいて、実施をしていただければと思うんですけれども、いかがでしょうか。答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長（発言する者あり）

○樋渡市長〔登壇〕

まずですね、65歳以上というのではないと思うんですね。っていうのは、先ほど出たように優位の差がないということで、ポイントになるのは75歳のところだと思うんです。少なくとも75歳の方の死亡の一番の原因が、肺炎になっていて、しかも先ほど御説明があったように、そこにまた医療費がかかってこれが国民負担になるということですので、これ今、村上智彦先生もおっしゃいましたし、以前黒岩幸生議員もおっしゃったし、吉川議員もおっしゃったんですけど、いかに肺炎にならないようにするかというのが大きなポイントだということので考えたときに、私は肺炎球菌のワクチンっていうのは非常に大切だというふうに思っています。

その中で、8,000円するんですよ、先ほど御説明あったように。ですので、今ちょっと考えようと思っているのは、生活保護世帯の方々は、もう全額補助をしたいと。それと、課税対象の方々については、これについては負担をね、何ちゅうんですかね、してもらって、半額なのかなというふうに思っていますので、ちょっとその線に沿って制度設計をしていきたいというふうに思っています。

ただし1点ですね、ほかにもいろんなワクチンがあるんですよ。これをやるっていうことになる、ほかのができなくなる可能性もあるんですよ。ですので、これはもう少しちょっと我々に時間をください。時間をいただいた上で医師会、今もう医師会ともすごく仲がいいですので、医師会でありますとか、うちのくらし部を中心として1回ちょっと勉強をさせていただいて、この報告については、また次の議会等で、その検討の結果についてまた御報告できればいいなというふうに思っております。

ちょっとこれは肺炎球菌ワクチンだけじゃない話もあるので、それは優先順位もつけてね。本当は優先順位つけちゃいけないのかもしれませんが、ちょっと議論の時間を与えていただければありがたいと思います。

ちょっと貴重なね、お話しをしていただいたことには感謝をしたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

この肺炎球菌はですね、やっぱり何ちゅうんですか。全国的にも17.5パーセントの摂取率っていうことで、県内ですね、私も全部、実施しているところの摂取率まで調べました。ちょっと今回ですね、グラフとしてはちょっと出しませんけれども、そこら辺の情報もですね、ぜひ担当課のほうにはお渡ししていきたいと思います。

以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、3番上田議員の質問を終了させていただきます。